

市民景観海外派遣研修活動フォーラムだより

日時：平成 21 年 7 月 11 日（土） 13:30～16:30（開場 13:00）

場所：宮崎市民プラザ 4 階ギャラリー

プログラム

第 1 部 13:30～15:00

開会あいさつ

あいさつ及び研修行程の概要説明

班別自主研修発表（平成 20 年度景観海外派遣研修参加者）

1 班「公共空間の緑地環境と景観」

2 班「屋外広告物と景観」

3 班「シンガポールの緑化政策と住民の関わり」

4 班「公共住宅団地の緑化と環境」

第 2 部 15:10～16:30

班別自主研修発表についての講評及び講話

北川義男 氏（南九州大学環境造園学部教授）

パネルディスカッション

「市民による宮崎市の景観づくりについて」

コーディネーター 北川義男氏（南九州大学環境造園学部教授）

パネリスト 平成 17～20 年度景観海外派遣研修参加者



平成 17 年度～20 年度の景観海外派遣研修参加者をはじめ、市民、事業者、行政職員等 71 名の方の参加によりフォーラムが開催されました!!

1 班「公共空間の緑地環境と景観」

シンガポール

- 沿道空間は、統一したコンセプトで整備されており、樹木には生長に必要な十分なスペースが与えられている。また、樹木が、車道や歩道、照明施設等と同様、そのまちに必要施設としてきちんと機能していると感じた。南国のイメージを感じさせる木によって、もてなしの気持ちを表現しているようにも感じた。

宮崎市

- 宮崎市の目指す景観イメージが非常にわかりづらいように感じられる。また、樹木が非常に少ないスペースに押し込められ、舗装は盛り上がり、歩道は修繕を繰り返さざるを得ない場所もある。そのような歩道は利用者にとっても支障となる。街路樹の樹種を見直す等が必要。
- 樹木を植栽した際の支柱についても、木が根付き役割を終えたら速やかに撤去し、木の生長を阻害しないように管理してほしい。
- 宮崎神宮近くの市道のクロガネモチの並木や県庁のアコウの木、県庁周辺街路樹の痛々しい状況。
- 極端な剪定が目立ち、樹が 1 年かけて繁らせた枝葉を根こそぎ伐ってしまう。枝を新たにそろえるためには膨大なエネルギーを消耗する。樹勢が衰えると病害虫が発生しやすくなり、樹形の乱れが発生しやすくなる。
- 電柱と電線、街路樹の位置関係を変えると、印象が変わる。
- 案内看板についても、単体で考えずに、周囲にあるものに気を配っていただきたい（市役所近辺の女性像、橘橋北詰め広場のビロウの木等）
- 芝生を盛り上がるように植えることで、まっ平らに芝を張るより、緑視量が多いことに気付いた。
- 人工的なものは必要最小限に設置していただき、必要がなくなった時点で他の必要な場所に移すなど、柔軟な対応をお願いしたい。



- ・より良い景観づくりは、みんなで取り組むものだ。みんながそれぞれできることに取り組むことが重要。

提言

- ・見せたいものを見にくくしているものを取り除く必要があるので、まずは、引き算の景観づくり、まちに潤いを与える樹木達が悲鳴をあげているので、樹木が本来の形に生長し、活躍できるような環境を作ってあげるような取り組みを進めることを提案します。

2班「屋外広告物と景観」

シンガポール

- ・高層ビルを屋上から見たとき、広告塔などは一切見られなかった。
- ・果たして、広告物の条例があるのかなと思うほど、原色が使われ、派手な広告物もあった。
- ・整然と並んだバナー広告は、見た感じすごく印象に残る気持ちのいい広告の一つであった。
- ・歩道橋には、必ずといっていいほど、植栽がされており、すごくいい印象であった。
- ・ガーデンパーク内にあったサインは、お金がかからない簡単な木材でつくってある。感じが良く、周りの雰囲気にもマッチしていた。
- ・バスやタクシーのラッピング広告は派手であった。

宮崎市

- ・宮崎市にも、良い印象のものはある（高千穂通り沿いの歯科医院の木の陰のようなペイント等）。
- ・市内の屋外広告物の中には、良い印象を与えないものもある。

提言

- ・例えば、県庁楠並木通りの鳥のふんに注意を促す看板のそばに花を植えてみたり、歩道橋に花と、そばに木を植えてみたり、橘通りの交差点付近の道路の真ん中に樹木をもってくることによって、すごくまちの景観が良く、気持ちの良い印象になるのではないかな。

感想

- ・シンガポールを見て勉強して思ったことは、とにかく緑が豊かであることによって、すごく生活がいい、生活者という環境づくりがいいのではないのかなということです。



3班「シンガポールの緑化政策と住民の関わり」

シンガポール

- ・シンガポールでは、地域、学校、それらとの関わりについて、公園代行プログラムという有名なプログラムが準備されている。この代行プログラムにより、緑化に加えて、地域コミュニティの連携を図っている。
- ・シンガポール植物園（概算してフェニックス自然動物園の5個分の面積）は、無料解放で、年中無休で、市民はいつでも訪れることができるという環境にある。その植物園の中で、緑化指導や住民の緑化に対するコンサルタント等、いろいろな行事がおこなわれている。住民の緑化意識の醸成が実行されていると認識した。
- ・緑化維持については、自然保護プログラム（保存道路、保存樹木、樹木保護地域）が動いている。
- ・住民との関わりとしては、公園管理代行プログラム（機材・知識の提供、管理代行権の提示）、緑の高層化プログラム（情報提供、緑化意識）が動いている。

宮崎市

- ・宮崎市は平成15年に緑の基本計画が制定されている。まだ7年経っていない。シンガポールとは国情等も全く違い、単純に比較することはできないが、住民との関わりについては比較できるだろう。大きなポイントとしては、市民との協働のまちづくりが謳われている。花いっぱい推進事業、オープンガーデン、公園愛護というプログラムが動いている。



- ・楠並木通りはもっともっとPRしてもいいのではないかと。高千穂通りや交差点の緑のボリュームについては、シンガポールと差がある。

提言

- ・緑のまちづくりへの提案： 公園愛護会、沿道修景事業などの充実（年2回花の苗を提供される際に、せっかく住民が集まるので、せめて花の名前、手入れの仕方、灌水方法等をその場で指導してくれるというようなことがあれば、シンガポールの公園代行プログラムに類したことが、住民レベルでもできるのではないだろうか。 フローランテ宮崎、市民の森を核とした緑化の取り組み。市民の森は無料で、年中無休。フローランテ宮崎は、5時で終わり。今は夜は7時過ぎでもまだ明るいので、そういう時間を開放して、自由に、この中を散策できる市民の憩いの場として提供したり、相談会を設けたり、無料講習会（講習会自体は材料費だけだが、入場料を払っていかないといけない。）等、市民レベルにあった運営を考えていただきたい。 マンションなどは、シンガポールの高層プログラムに準じた緑化施策をしていただきたい。宮崎に訪問される際の玄関口は限られているので、それを強みとして、（空港は今花が手入れされているが、）駅、高速の出口、フェリーターミナル等も、圧倒される印象を与えるべく策が必要ではないか。
- ・高千穂通りの噴水、ごみ収集車の収集時間等からも、シンガポールとの認識の差があり、もっと改善するところがあるのではないかという気がした。

4班「公共住宅団地の緑化と環境」

シンガポール

- ・団地に続く入り口部分には、広告が数箇所にとめられ、他のところでは見られることはなかった。また、バス停には必ず屋根があり、建物まで渡り廊下のように続いているところもあった。歩道橋の花も、見える場所があらかじめ設計されているようだった。
- ・各団地や広場を緑のラインで結ぶという政策の一つ、パークコネクターがあり、すみずみまで政策が実行されているのを実感した。
- ・シンガポールでは、路面に駐車禁止マークが描かれており、道路標識も少なかったが、日本でも高価な標識を使わない、このようなアイデアも取り入れてみてはどうだろうか。
- ・シンガポールでは、50年先を見越したコンセプトプランをもとに明快なビジョンを国民に十分知らせ、推進されている。これは見習うべきだと思う。

宮崎市

- ・宮崎の新しい団地は、緑も多く、広場や遊歩道があり、整備されている。一歩団地の外は、緑が少なく、乾いた情景がある。手の込んだ植栽より、まずは緑の面を増やしていくことが急務だと感じた。

提言

- ・市民が点を、行政が線を、協力して、宮崎らしさのある緑のまちづくりを広げていけると良いと思う。



班別自主研修発表についての講評及び講話

- ・ こういう制度を宮崎市がおこなっていることが素晴らしい。住民の人で、興味のある人を、ある期間、研修機会を設けながら、自分のまちを考える機会をうまく提供している。非常に具体的に、非常に理解しやすいような内容まで提示されているので、それは大きな成果だと思う。
- ・ 1班について：生き物としての維持管理をシンガポールと比較しながら、次どうしていったらいいのか、明確に提示されていたのが特に印象に残った。
- ・ 2班について：空間の中に、いろんな広告のデザインとかが入ってて、色もいろいろ工夫してやっているが、うまくその特徴の中でまとまっている、という印象を受けた。まちをつくっていくときには、広告というところでアプローチされていたが、緑の大きな意味がよりわかりやすく、別の切り口からも指摘されていたのが印象的だ。

・3班について：シンガポールはガーデンシティからシティインガーデンへ、とコンセプトも進化している。宮崎も、自分のまちを高めていくときに、どこかの段階でコンセプトも進化、という思いもした。住民参加のシステム、新しい公園代行制度、非常に興味深い。宮崎でも展開していく。多くのオープンスペースがそういうシステムに乗かっていくような方向に進んでいくと、よりいいと思う。教育の分野でも、そういうシステムを、次、トライしていくというようなこともいいのではないかな。基本的に宮崎は、次の豊かなまちづくりのリーダーの位置にあると思っている。



・4班について：身近なところを市民が点、行政が線というところを大切にしていきながら、ご提案等を有効に活用していくことは重要だと思う。長期的ビジョンをどうしたらいいのか、子供や孫たちにどう宮崎のまちを提供してあげたいのか、というところの語りもあわせながら、楽しくキャッチボールして、共有しながら展開していくと、現在行われている手法の改善方法に気付くかもしれない。大きなバックボーンを並行して描かないと、今までの仕組みの部分的変更程度ではだめだという印象を受けた。

パネルディスカッション テーマ「市民による宮崎市の景観づくり」

1 テーマ「宮崎について、こんなだったらいい」

- ・県庁の楠並木通りが、中心市街地全部であって、ところどころにおしゃれなお店が見えるというような。
- ・楠並木と、南国情緒というものをもう一回捉え直すという作業も必要じゃないかと思う。
- ・亜熱帯性の植物は、一つは歴史的価値を持っているいわゆる遺産かもしれない。
- ・日南国定公園から県庁所在地の中心部まで、一つのコンセプトでずっとつながって、風景をつくっているところというのは他にはないから、宝だと思う。
- ・大淀川が素晴らしい。そのおおらかさとかが広がりが、非常に素晴らしい宮崎の資源だと思う。
- ・何でも強み、いいところを見つける発想がとても重要だと思う。大地もあるし、川もあって、海もある。これはひょっとして宝物かもしれない。
- ・緑がたくさんあふれるまちがいいという方向で言うことはないが、もう少しメリハリがほしい。人をワクワクさせるようなものもほしい。人が必ずそこにいて成立する風景、景観というのが、とても宮崎には好ましいという気がする。
- ・生活しているところは、人が場所と関わって過ごしているから、人がいきいきしているというのが基本みたいと思う。
- ・宮崎市は、歴史的資源が逆に少ない。少ないということは、あまり拘束されないということだから、宮崎は自由に創造的に何か展開できるという強みをもっているということではないか。
- ・気候的にも冬厳しい状況ではなく、海もある。人も穏やかな人が多い。そういうようなものが財産で、ただし、なにかデザイン工夫したり、創造的につくって表現していったり、ということもあるのではないかな。
- ・まだ宮崎はポテンシャルがたくさんあって、それを見つけながらどう再編成していくかということも一つかもしれない。
- ・ガーデンアトラクションシティ。本当の意味での豊かということを考えて、ワクワクするような観点からも、景観というのを考えて、理想としていく必要があるのかなと思う。
- ・人間は、もう少し、ものをつくる喜びみたいなものをいろんな面で、もう少し生活に取り入れた方がいいのではないかな。
- ・ワクワクするとかそういう所も含めて、宮崎の色使いというのをもうちょっと考えるべきではないかと思う。
- ・シンガポールのまちは、原色だけの風景もあったが、統一感がある程度あったから、何か調和がとれていたのではないかなと思う。派手な色はダメとか、否定をするのではなく、ある程度まちにあった色使いを考えられたのかなと思う。

2 テーマ「市民による宮崎市の景観づくり」

- ・現在行われている住民によるボランティア活動は、またそれで進めて、どんどん広げて、といいのかと思う。
- ・シンガポールの見習うべきプログラムとか、そういう部分を取り入れていくとか。教育での部分でとか。
- ・自分のまちで関わっていく方法は、シンガポールの中で、いろいろあったんで、そういうようなものは一つは生かしていく。また、自分のまちが、美しいことの素晴らしい意味とかを、小さい頃から理解が進むようなステップがいいのではないかと。
- ・自分の家の前を飾ろう運動をしている。お花を育てて、うちの町に入ってくると、皆同じプランターが並んで、同じ花が咲いてとか、そういうことをやってみたら、まちがおもしろくなるのではないかと。人で、人づくり兼まちづくり兼風景づくり、子供の見守りもできるのではないかと。一石何鳥かやろうかというふうなことで、近所の方々と盛り上がっていく。コミュニティづくりと、景観づくり、まちづくりというのは、非常に直結しやすいので、そういったところから小さな点が線になり、それが少し線とか面になる可能性もある。
- ・子どもたちの教育に関しても、情緒豊かな、その美的感覚を磨けるような教育も必要だし、美しい景観ができれば、そこで育つ子どもたちの美意識もあがる、という好循環ができていくのではないかと。まずは、こんな素晴らしい景観のところに住んでいるという誇りをもってほしいし、周りの人は教えてほしい。
- ・年齢関係なく、自分の住んでいるところの良さを、一度振り返ったりしながら、みんなで自分のまちを磨きあって、語り合うというのもいいかもしれない。
- ・良いものを評価していくコンテストみたいなものがあれば、ぜひ参加したい。また、市の広報等の一こまにも、まちで見つけた良い看板などを毎回やってもらったりすると、看板をつくってらっしゃる方はげみにもなると思うし、今まで景観にあんまり興味がなかった人も、興味をもってちょっとでも参加してみようかな、というような気持ちになるのではないかと。
- ・こういうような機会を、いろんなパートで、何か気楽にやったらいいのではないかと。全体で考える部分もあったり、部分であったり、いろいろあってもいいのではないかと。行政の方で、記録して、興味があったときにみたら分かる、やろうとしたときには、やりやすい仕組みなどは、市民が景観づくりに参加したり、あるいはそのようなプログラムをすることが、景観づくりのもとかもしれない。
- ・日本というのは、四季がある。これを忘れてはダメだと思う。葉っぱが落ちる苦情は多いが、極端な話、この木があるからこそ、住環境が守られているのではないかと、という認識をいかに高めていくかということが、宮崎市の景観を守るというのでは必要だと思う。
- ・効率のいいような樹木だけを植えたり、四季のないようなまちというのは、だめなのかもしれない。
- ・一緒に、樹木のこと、何らかの形で活動をみんなとしていきたいと思っている。
- ・学校の環境をまず良くしてもらいたい。緑にあふれるとか、学校の校舎につたをはわせたり、それを子どもたちにやってもらったら、とかして、緑だらけとか、つたにおおわれた学校とか、宮崎の小学校はどこに行っても緑いっぱいだね、というふうになると、そこで育った子どもが、じょじょに我々ぐらいになったときに、環境のことや景観のことをわかってくれるのではないかと。
- ・環境が違うが、シンガポールに大きな目標で、それに宮崎の良い所を調和させてまちができたらいいなと思う。
- ・私達が、大淀川みたいに、ゆったりとしておらかな宮崎人になるよう努力すべきだと思う。
- ・どういう方向にいったら、中期、長期ということも、もっと市民レベルなどで、いっぱい発信していけるとよい。
- ・このような集まりも、部屋の中ではなくて、例えば、そこの庭先でやるということもおもしろいかなと思う。
- ・やっぱり緑豊かなまちをつくるということ。